

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070700214		
法人名	特定非活動法人 お互いさまネットワーク		
事業所名	グループホーム喜楽		
所在地	群馬県館林市北成島町1829-5		
自己評価作成日	令和元年6月18日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所目標で確実なケアプランの実施をあげ職員全員がお年寄りケアプランを理解し毎日の生活の中で実施できるようにしました。職員がお年寄りと必ず寄り添う時間ができよりいい関係性が出来てきたと思います。畑仕事を季節のものが美味しく食べられるようお年寄りの力や知恵を借りて行っております。毎年グループホーム大会に参加し同業者同士の悩みや介護力を参考にしています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日常的に事業所を訪れる人も多く、来訪者を迎える利用者の表情はにこやかで、穏やかである。また、利用者同士の関わりあいの中で、たがいに影響しあい助けあう姿も自然とみられる。職員は、利用者の個性や得意なことを日々観察し総合的に把握した上で、「一人のお年寄りをみんなで支える」ことを基本に、3ヶ月ごとにアセスメントを行ない、家族に確認しながらケアプランの見直しとケアポイントを立てている。ケアポイントは、具体的な支援の内容となっており、職員の支援の目安にもなっている。地域資源のひとつとして法人が運営しているカフェや地域の店も日頃から活用している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和元年6月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は全体のミーティング後、お年寄りのところで唱和している。日誌に記入されており共有している	職員が法人・事業所の理念を確認できる時間を持てるよう業務日誌に掲示している。利用者がその人らしく生活できるよう、状況に応じ計画に基づいた支援を実践するよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回のボランティアに近所の方をお願いしたりやお互いさまカフェのだんだんで催しものを定期的に行っている。各ユニットごとに近所のゴミ拾いを行っている	「いこいの場サロン」への参加や、法人運営のカフェでのコンサート等の催し物への参加の他、地域の店に出かける機会も持っている。アコーディオンや歌などのボランティアも毎月来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お互いさまカフェ「だんだん」で認知症カフェや居場所のよってこ松沼で認知症サポータ講座を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見は職員会議等で職員に伝えている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き、事業所からの報告の他、参加者から地域の情報を知らせてもらい、情報交換を行っている。事業所の方針や、苦情・身体拘束についてなど、具体的な議題もとり上げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで関係性を築いている	事業所の報告等は管理者が行っている。介護保険の更新手続きの代行や認定調査の立ちあいも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。運営推進会議で議題に確認している	玄関の出入りは自由で、来訪者も日常的に多く、利用者も気軽に迎えており開放的である。身体拘束はなく、運営推進会議等でもとりあげている。スピーチロックは、そのつど注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待担当の職員が学習会を開いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関してはあまり知られていないので勉強会が必要		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者に説明をし、理解を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会に要望書を送り家族の懇談会で意見や困りごとなどみんなに話している	利用者の思いは、日々の瞬間の言葉や表情から受け留めている。家族には、面会時・計画の見直し時・年2回の家族会の際の要望書などを利用し、要望は食い違いの無いようにすりあわせ、実践に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や意見、提案を職員から聞いている	職員が積極的に意見を出せる雰囲気を作り、体制を整えている。今年度は有給休暇の取得、他の事業所との交流、利用者とのエピソードを語り合うことに取組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見で有給が取りづらいの意見でマイスペシャルデイをつくり実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会や研修の計画をし職員を育てている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	レベルアップ研修や研修で意見をきいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所するまでにグループホームで過ごす時間を設け本人の話を聞けるようにしている、出来る事、出来ないことシートを作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントや面会時様子を伝えながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をきき支援を見決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく、ゆったり、いっしょに、楽しくを合言葉に支えあう支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し本人の意見を聞きながら希望に沿うようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が来て下さり以前通っていたサークルに参加している。お互いさまのカフェ「だんだん」を利用している	家族と衣替えをしたり、買い物や外出に出かける利用者や、知人と自宅へ行ったり馴染みのカフェに出向いて絵手紙などを楽しむ利用者もいる。自宅で使っていた家具や暦、時計などを持参してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	困っている時や不安そうにしている時など話を聞いたり側によって言葉をかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり連絡は取っていないがカレンダーを毎年持って来て下さっている家族の方がいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に1度ケアプラン作成にアセスメントシートとしてセンター方式の「本人の姿と私の気持ちシート」を作成し思いや意向を把握している	日々の生活の中で声かけをしながら、利用者のその人らしさを発見し、『私は負けない』という本人の意思や長年やってきた畑に関わること等、具体的に支援に活かせるよう話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族に生活歴、暮らしの様子をきいている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのケア記録や申し送りでその日の様子を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに本人、家族の要望を担当者が聴きケアプラン会議で職員全員で計画を立てている	利用者・家族・職員で、計画について確認している。3ヶ月ごとにアセスメントをおこない、計画の見直しやケアポイントを立て、「一人のお年寄りをみんなで支える」ことを共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌は個別に記録しており職員が記録確認している。申し送りで気づきなど伝えている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時など家族の方が忙しい時など洗濯の支援は有償ボランティアを使っている。お年寄りの誕生日にカフェを貸し切ってお祝いをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の買い物(スーパー)や近所の美容室に行っている。ボランティアで美容室の方がカットにきてくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅でのかかりつけ医を主治医としている。通院できない方は往診の先生をお願いしている	契約の際にかかりつけ医に挨拶し、継続してもらう事と通院できない時の往診もお願いしている。通院の付き添いは基本的には家族だが、必要時は職員も同行している。訪問歯科も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師がおり相談してお年寄りが安心できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師が付き添い情報を伝えている面会に行き様子を聞くようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメント時に本人の希望をきき家族に伝えている。重度化や終末期は方針をたて話し合いながら支援している	事業所の方針を基に、看とり支援の場合は不安のないよう、その都度状況により職員、家族、関係者が共有するために、会議を開催する体制を整え支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修や学習会で勉強会をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、夜間想定避難訓練は行っている。消防署立ち合いの訓練の年2回開催している。火元責任者の会議で災害の対策を確認しあっている	火災・水害・地震を念頭に、消防署と相談しながら訓練を行っている。法人として地域での役割が果たせるよう、井戸の活用、食料、備品等も用意している。	事業所の地域で果たせる役割が明確になるように、地域協定が実現することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意し指示・命令語をしようしないようにしている。プライバシーを損ねないようにしている	本人の要望や意見を確認することを前提に、訴え、仕草、言葉を基に、声かけや支援に努めている。利用者同士が助け合い、人のいたみ分かる雰囲気大切に言葉使いに配慮し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、どんなことをしたいか聞き、本人が決められるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食べたい物などなるべく希望に添えるようにしている。ほしいものがあるときは優先的に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洋服選びやおしゃれが出来るように目のつくところにおいておく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お年寄りが負担にならないように出来る事(皮むきや盛り付け)など職員と一緒に準備をしている	食事支援の技術の向上のための勉強会や臨機応変な提供に努めている。毎晩就寝前にノンアルコールビールを楽しむ利用者や家族と外食に出かけたり、出前や弁当など食べる楽しみも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあわせ刻み食や食べられるように支援をしている。水分量は職員が把握し少ない人には支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、就寝時の口腔ケアをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を排泄表を使って支援している	時間や表情によりトイレ誘導をし排泄支援をしている。同性介助の希望にも応じている。ポータブルトイレを夜間利用する場合は、昼間ベランダで消毒している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトや10時にきな粉牛乳、ココアを飲んで予防している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を聞きながら利用し支援しているが、ほとんどは職員がきめている。自分の好きなシャンプーやリンスを使用している人もいる	1日3~4人、週2~3回の入浴を目安にしているが、声かけにより連日入浴している利用者もいる。シャンプーを自前で用意している人もいる。季節の入浴を楽しんだり、冬場は足湯もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気のいい日には布団をほしたり週1回のシーツ交換を行っている。寒い時は湯たんぽを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で薬作りは職員がおこなっており処方箋用紙で確認している。新しい薬を処方されたときは様子を伝え合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お年寄りが得意なことなどを中心に力を発揮できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩(二宮金次郎さんにお参り、畑の管理)や毎日の食材の買い物など行っている	毎日散歩や、買い物に出かけている。デッキを利用して、お茶を楽しんだり、花の植え替え、畑仕事もしている。家族と外出して買い物をしている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時財布を持って買物ができるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日家族に電話をしていたが忘れてしまい時々になっている。遠方の家族より週1回ぐらい電話で話をされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や換気をよくしている。音には配慮しながら心地いい工夫をしている	緑にかこまれた外庭をはじめ、テラスや廊下のスペースにも植木やソファが置かれ、ほっとできるスペースが確保されている。2部屋に1つの割合でトイレがあり、いつでも利用できる安心感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが2つあり共有空間でも一人になれる居場所があり、お年寄りが利用している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたカレンダーや時計など馴染みのものを置いていただいている	居室にはエアコンとベットが用意されている。利用者の思い思いのもの(布団・タンス・テレビ・冷蔵庫・イス・洋服かけ・家族写真・趣味の物)が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の表札は入所時にご自分で書いていただいている		